

■：東日本大震災・津波、福島原発事故と天災、人災に振り回されたニッポン。運命論者ならずともこの不幸を嘆き悲しまざるを得ません。遠く離れた場所に居ても被災者たちのショックを同じように受け止め、同情し励ます、出来る限りの手を差し伸べる。これが人間というものではないか。世界各地から「がんばれ」の声、ありがたいことです。

■：…とは言えこれまでの報道の姿勢はちつとも変わっていません。連日、連夜、これでもか、これでもかの災害関連ニュース。日本のマスコミの「一点豪華主義病」、集中豪雨的報道癖」とてもいのでしようか。他にも人間生活に大切な情報があり

■：政治家たちはそうは行きませぬ。現地の復興のために必死で手を打たねば。政局、ゴッコもいい加減にしておかないと政治離れが益々進むことでしょう。復興と景気対策。やり甲斐のある大きなテーマに全力投

球するべし。菅の足の引っ張り合いは小休止して被災地のために身を粉にして動かなければ。次期総選挙では、政治が何をしたか、政治家がどう働いたかが有権者の投票行動に100%投影するはず。

■：円が一時1ドル178円48銭（7月13日）をつけ、戦後最高値（76円25銭）を記録した3月17日以来、約4カ月ぶりの円高ドル安に。このまま進めば日本の輸出競争力が弱まります。復興を進める日本経済に影響が出るでしょう。1960年代、基軸通貨米ドルが360円という時代もありました。そこから日本人が懸命に働き、ついには米国に次ぐ経済大国になったわけ。もつともお隣り中国の「巨人化」は当分目が離せませぬよ。

■：1兆米ドルの外貨保有で鼻高々の中国。経済力の拡大は良いとして、軍備拡張や海洋権益確保の動きは警戒を要します。東シナ海、南シナ海であえて摩擦を生じさせて「知らぬ顔の半兵衛」を決め込む。台湾、フィリピン、ベトナム、インドネシア

■：そんな世界情勢の緊張化の中で「ニッポン・バンザイ」を叫びしでくれたのが日本女子サッカーのワールドカップ（W杯）ドイツ大会での優勝。それも最強といわれたアメリカ相手にPK戦でのひと蹴りで世界1を決めたドラマは日本人全体に感動を与えました。大災害の悲しい現実も吹き飛ばすほどの衝撃的な瞬間で、喜びに酔いつぶれるほど。総理大臣がいつ変わるの、誰れになるの、といった予想もアホらしくなるほど。

■：サッカー、昔は蹴球といったもので、欧米では「貧乏人のスポーツ」と位置づけられていました。ボール1つあれば裸足で野原を蹴りま

諸国は顔をしかめて見守るばかり。わが国の反米親日派グループは手をたたいて大喜びとか。相手が共産主義国家であることを忘れているとは思えません。もつとも左翼の連中であれば「日本はいずれ中国の属国に」ぐらい考えているかも知れませんが。

■：サッカー、昔は蹴球といったもので、欧米では「貧乏人のスポーツ」と位置づけられていました。ボール1つあれば裸足で野原を蹴りま

月刊公論 MONTHLY KōRON

9月号 第44巻9号

平成23年9月1日発行 毎月15日発売
定価890円(本体848円) 送料92円

発行人 大 中 吉 一 編集人 田崎義信 土井正彦
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008東京都新宿区三栄町25ポナフラワービル
TEL.03-5379-5611(代)、FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社廣済堂
取次店 トーハン/日本出版販売/大阪屋/栗田出版販売

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。